

# 第 8 回日本婦人科がん分子標的研究会 学術集会

平成 21 年 7 月 3 日 (金)

受付開始 12 時 00 分  
学術集会 12 時 30 分～18 時 00 分

博多エクセルホテル東急  
〒812-0801 福岡市博多区中洲 4-6-7  
TEL 092 (262) 0109

学術集会長

九州大学大学院医学研究院生殖病態生理学 教授  
和氣 徳夫

〒812-8582 福岡市東区馬出 3-1-1  
TEL 092 (642) 5395 FAX 092 (642) 5414  
E-mail : ikyoku@gynob.med.kyushu-u.ac.jp

## ご挨拶

この度、「第8回日本婦人科がん分子標的研究会」を福岡市で開催させていただきますことを大変光栄に感じております。第6回研究会は熊本大学・片渕秀隆教授が阿蘇において大変盛会裡に開催されましたことは未だに鮮明な記憶として残っております。3年間で2度の九州での開催となりますが第6回がMountain Viewを楽しめた阿蘇で、そして今回がOcean Viewを堪能する博多での開催ということで、それぞれ特徴をもった印象深い研究会にするため、関係者一同懸命の努力をしている所です。

近年、癌研究には大きな混乱が生じております。様々な細胞情報伝達系は、その複雑なクロストークにより、細胞の正常性の維持に機能することが明らかにされ、癌化シグナルのリダンダンシーの原因となっております。さらには癌幹細胞というものが存在し、通常の癌細胞とはその生物学的特性に大きな相違の存在すること、癌発生へのエピジェネティクスの大きな関与、等々です。一度思考回路を整理し、交通整理をすることが、今後の研究の方向性の決定のためには必要不可欠です。

本研究会の目的は、同じ空間を共有し、大いに語り合い、次の癌研究の方向性を拓く事にあると理解しております。博多という町で、美味しいお酒、料理をご堪能いただき、婦人科腫瘍医学を志す研究者に次世代における大きな夢を、是非とも持っていていただくことのできる研究会にしたいと思っております。博多のOcean Viewを楽しんでいただき、少しでも疲れが癒される様、教室員一同鋭意準備をすすめて参りました。皆さまのご来福が実り多い楽しいひとときとなりますよう祈念しております。

平成21年7月

第8回日本婦人科がん分子標的研究会学術集会 会長  
九州大学大学院医学研究院生殖病態生理学 教授  
和氣 徳夫

## 【交通案内図】 博多エクセルホテル東急

〒812-0801 福岡市博多区中洲 4-6-7  
TEL 092 (262) 0109 FAX 092 (262) 5578



### 【博多エクセルホテル東急へのアクセス】

1. 地下鉄      ①地下鉄空港線中洲川端駅1番出口より徒歩1分  
                  (中洲川端駅まで福岡空港駅より10分、博多駅より5分)
2. JR            〇博多駅より車で7分

### 【会場】

博多エクセルホテル東急 2階 宴会場 舞鶴

世話人会 (11:00~12:00)

学術集会 (12:30~18:00)

懇親会 (19:00~21:00)

(19:00 出港のレストランシップ・マリエラの1F ホールを貸切とし、博多湾クルーズディナーを堪能する懇親会です。会場ホテル発 18:15 のバスで出港棧橋までご案内します。ご同伴の方も含めて奮ってご参加ください)

## 第 8 回日本婦人科がん分子標的研究会 学術集会

平成 21 年 7 月 3 日（金） 博多エクセルホテル東急

受付開始： 12:00

学術集会： 12:30～18:00

懇親会： 19:00～21:00（ホテルより 18:15 バス出発）

### 【参加者の方へ】

1. 学術集会の参加費 5,000 円と、参加される方は懇親会費 3,000 円を受付でお支払いの上、参加証及び領収書をお受取下さい。
2. 日産婦研修シール（10 単位）が発行されます。

### 【講演演者の方へ】

●一般講演の方は発表時間 口演 10 分（時間厳守）、質疑応答 4 分です。それ以外の方はプログラム内に記載の通りですが、座長の指示に従って下さい。

#### ● データ受付について

1. ファイル名は「演題番号・演者名」として下さい。
2. 第 I 群の発表の先生は 30 分前迄に、他の発表の方は 60 分前迄にスライド受付にてデータのチェックを行って下さい。
3. 受付コーナーではデータの修正は出来ませんので予めご了承下さい。

#### ● データの作成について

1. ご使用になるアプリケーションは、Win 版：Power Point 2000/2003（2007 版をお使いの方は 2003 形式でファイル保存願います）のみとさせていただきます。（Mac で作成の方は、ご自身の PC をお持ち下さい。動画ファイルは Windows Media Player で再生可能なものに限りません）。ご不安な方はご自身の PC を持参下さい。
2. フォントは、OS 標準のもののみご使用下さい。
3. 画面の解像度は、XGA (1024×768) をお願いします。
4. 保存するメディア媒体は、CD-R、USB メモリをご使用下さい。
5. CD-R の書き込みは、ハイブリッド方式をご使用下さい。パケット式は他の PC で読めない場合がありますのでご使用にならないで下さい。

● PC を持ち込まれる方へのお願い

1. 発表の 60 分前迄にスライド受付にて、準備されているモニターに接続し、映像の出力チェックを行って下さい。PC の機種や OS により出力設定方法が異なりますので事前に確認して下さい。接続ケーブルは、D-sub15 ピン（ミニ）をご用意しておりますが、PC によっては付属のコネクタが必要になりますので必ずお持ち下さい。
2. スクリーンセーバー、省電力設定は必ず解除して下さい。

● パソコン操作のご案内

1. 演台上に設置されているモニターで確認しながらキーボード・マウスにて各自の操作で進めて頂きます。

## 第8回日本婦人科がん分子標的研究会学術集会

開会

会長 九州大学 和氣 徳夫

I 群

12:30~13:26

発表: 10分 質疑応答: 4分

座長 京都大学 万代 昌紀

1. 卵巣癌、子宮頸部腺癌における転写制御因子 NAC-1 をターゲットとした分子標的治療確立のための基礎的検討

島根大学産科婦人科

中山健太郎、中山真美、石橋雅子、シャミマヤスミン、片桐敦子、飯田幸二、宮崎康二

2. 子宮内膜細胞癌において肝細胞増殖因子は COX-2 の発現を介してアノキス抵抗性を高める

奈良県立医科大学産婦人科学教室

吉澤順子、山田嘉彦、金山清二、大野木輝、重富洋志、春田祥治、吉田昭三、古川直人、大井豪一、小林浩

3. ユビキチンリガーゼ Fbxw7 による細胞周期制御、細胞分化制御と発がん抑制機構

九州大学大学院医学研究院生殖病態生理学<sup>1)</sup>

九州大学生体防御医学研究所分子発現制御学分野<sup>2)</sup>

小野山一郎<sup>1)</sup>、恒松良祐<sup>1)</sup>、小林裕明<sup>1)</sup>、中山敬一<sup>2)</sup>、和氣徳夫<sup>1)</sup>

4. 卵巣癌局所における免疫細胞浸潤による階層的クラスタ解析を用いた new prognostic index の探索

京都大学

濱西潤三、万代昌紀、松村謙臣、馬場 長、劉敏、吉岡弓子、山村省吾、岡本尊子、姜賢淑、小西郁生

## Ⅱ群

13:26～14:08

発表：10分 質疑応答 4分

座長 信州大学 堀内 晶子

5. 子宮平滑筋腫におけるエリスロポエチンの血管増生作用に関する研究～平滑筋腫はなぜ巨大化できるか？

横浜市立大学医学部大学院医学研究科生殖生育病態医学<sup>1)</sup>、  
横浜市立大学附属病院病理部<sup>2)</sup>、横浜市立大学医学部大学院医学研究科分子病理学<sup>3)</sup>  
佐藤美紀子<sup>1)</sup>、宮城悦子<sup>1)</sup>、稲田真愛<sup>1)</sup>、永田佳子<sup>1)</sup>、山中正二<sup>2)</sup>、長嶋洋治<sup>3)</sup>、  
榊原秀也<sup>1)</sup>、稲山嘉明<sup>2)</sup>、平原史樹<sup>1)</sup>

6. 漿液性進行卵巣癌における細胞周期調節蛋白の発現と臨床病理学的検討

慈恵医大産婦人科<sup>1)</sup> 慈恵医大柏病院産婦人科<sup>2)</sup>  
矢内原臨<sup>1)</sup>、橋本朋子<sup>1)</sup>、岡本愛光<sup>1)</sup>、斉藤美里<sup>1)</sup>、高倉聡<sup>1)</sup>、篠崎英雄<sup>2)</sup>、佐々木寛<sup>2)</sup>  
安田允<sup>1)</sup>、落合和徳<sup>1)</sup>、田中忠夫<sup>1)</sup>

7. 卵巣癌進行期の腹腔内微小環境におけるM2マクロファージの関与

熊本大学大学院医学薬学研究部産科学婦人科学分野  
高石清美、田代浩徳、大竹秀幸、片瀨秀隆

### Ⅲ群

14 : 08 ~ 15 : 04

発表 : 10分 質疑応答 : 4分

座長 東京慈恵会医科大学 岡本 愛光

#### 8. 上皮性卵巣癌に対するシグナル伝達作用薬を用いた CDDP 耐性克服の試み

鳥取大学医学部生殖機能医学  
野中道子

#### 9. Glypican-3 をターゲットとした卵巣明細胞腺癌に対するタキソール感受性増強効果の検討

名古屋大学産婦人科  
柴田清住、梅津朋和、梶山広明、井篁一彦、那波明宏、吉川史隆

#### 10. E-カドヘリンを介した細胞間結合は卵巣粘液性癌の抗癌剤耐性に関連する

自治医科大学産科婦人科  
嵯峨 泰、竹井裕二、王 冬冬、野中宏亮、町田静夫、藤原寛行、鈴木光明

#### 11. 再発耐性卵巣がんに対する bevacizumab (アバスタチン) と pegylated liposomal doxorubicin (ドキシル) 併用の効果

西埼玉中央病院<sup>1)</sup> 大木記念女性のための菊池がんクリニック<sup>2)</sup> 防衛医科大学校<sup>3)</sup>  
帝京大学<sup>4)</sup> 慶應義塾大学<sup>5)</sup> 岩手医科大学<sup>6)</sup> 慈恵会医科大学<sup>7)</sup>  
工藤一弥<sup>1)</sup>、菊池義公<sup>2)</sup>、古宇田裕子<sup>2)</sup>、菊池良子<sup>3)</sup>、高野政志<sup>3)</sup>、喜多恒和<sup>4)</sup>、  
青木大輔<sup>5)</sup>、杉山徹<sup>6)</sup>、磯西成治<sup>7)</sup>

コーヒーブレイク



15 : 04 ~ 15 : 20



## IV群

15:20～16:02

発表：10分 質疑応答：4分

座長 九州大学 加藤 聖子

### 12. 子宮内膜癌における癌幹細胞マーカー候補分子の探索

金沢大学産婦人科

中村充宏、京哲、高倉正博、橋本学、水本泰成、森紀子、生駒友美、井上正樹

### 13. 卵巣癌標的分子 HB-EGF のトリプルネガティブ乳癌(TNBC)における標的分子としての妥当性の検討

福岡大学医学部医学科生化学<sup>1)</sup> 九州大学大学院消化器・総合外科<sup>2)</sup>

大阪大学微生物病研究所細胞機能分野<sup>3)</sup> 福岡大学医学部産婦人科<sup>4)</sup>

四元 房典<sup>1)</sup>、沖 英次<sup>2)</sup>、徳永 えり子<sup>2)</sup>、前原 喜彦<sup>2)</sup>、黒木 政秀<sup>1)</sup>、

水島 寛人<sup>3)</sup>、目加田 英輔<sup>3)</sup>、宮本 新吾<sup>4)</sup>

### 14. 子宮体癌における GPR54 の発現意義—新規治療標的としての可能性

京都大学大学院医学研究科器官外科学 婦人科学産科学教室

姜 賢淑、馬場 長、濱西 潤三、山口 建、松村 謙臣、万代 昌紀、小西 郁生

## V群

16:02～16:58

発表：10分 質疑応答：4分

座長 金沢大学 京 哲

### 15. 卵巣癌における class I Histone deacetylase (HDAC) の発現と機能解析

信州大医学部産科婦人科学教室

布施谷千穂、堀内晶子、林 晶子、菊地範彦、鈴木昭久、長田亮介、塩沢丹里

### 16. Sp1 阻害剤(mithramycin)の婦人科癌細胞増殖抑制機構の解析

九州大学生体防御医学研究所ゲノム創薬・治療学分野<sup>1)</sup>

九州大学大学院医学研究院生殖病態生理学<sup>2)</sup>

大神 達寛<sup>1)</sup>、加藤 聖子<sup>1)</sup>、小林 裕明<sup>2)</sup>、米田 智子<sup>1)</sup>、和氣 徳夫<sup>2)</sup>

### 17. 糖鎖をmimicするペプチドを用いた分子標的研究

浜松医科大学医学部産婦人科学講座<sup>1)</sup> 信州大学医学部病理組織学講座<sup>2)</sup>

バーナム医学研究所癌研究センター<sup>3)</sup>

杉原一廣<sup>1)</sup>、中山淳<sup>2)</sup>、福田道子<sup>3)</sup>、金山尚裕<sup>1)</sup>

### 18. 卵巣癌の腹膜播種に対するケモカインレセプターを標的とする新規治療戦略 ～腹膜中皮と卵巣癌の間に介在する“Seed & Soil”的腹膜転移を考える～

名古屋大学医学部産婦人科

梶山広明、山本英子、柴田清住、井篁一彦、那波明宏、吉川史隆

## 特別講演

17:00～18:00

座長 九州大学大学院医学研究院生殖病態生理学  
和氣 徳夫

「固形がんの組織特異性である低酸素状態を標的とする新規 DDS—非病原性嫌気性菌  
であるビフィズス菌をキャリアーとして」

信州大学大学院医学系研究科加齢適応医科学系専攻（独立専攻）専攻長  
同分子腫瘍学分野教授  
アネロファーマサイエンス社取締役

谷口 俊一郎 先生